常磐毎日新聞
日刊
一月十六日　夕刊
定價　一部金六錢　一ヶ月金五拾錢　郵稅五錢
廣告料普通一行五拾錢、場所指定一行七拾錢
日曜祝祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人　福島縣石城郡平町[illegible]　坂本忠治
發行所　常磐毎日新聞社　電話　六三〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社　（振替口座）東京　四〇二二〇番

天氣豫報

今晩は北の風晴
明日は北東の風　晴一時曇

喜べ！愛煙家

煙草が只ですひる

おまけに美人のサービス

高級な品でもお嗜み次第

眼を廻さぬ御用心

愛煙家よ喜べ！高級煙草が無料で然も美人のサービスガールの手で何れでもお嗜み次第無制限に喫へると云ふ破天荒の快ニュース——水戸專賣局管內の煙草小賣人組合聯合會では過般の煙草値上げ以來高級品から下級品へ一般的に嗜好が漸移して賣上げがぐつと減少の悲哀をかこつてゐたがこの頹勢挽回の一助にもと管內五ヶ所

平、水戸、助川、土浦、下館

繁華都市を選んで二月十一日紀元節前後盆栽を飾り紅白の幕を張り廻した試喫場を設けて一ヶ所約五千人に無制限にサービスすると云ふ素晴らしい計畫で更に艶麗な美人が『サアどうぞ！』と愛嬌を添えると云ふ夢ではないかと思はれる奇想天外の事實で平町での開催は期日、會場等は未定であるがなにせ類のない催しのため一般から非常な好奇と期待をかけられてゐる

飯野校　增築進捗

飯野小學校增築工事は工費二萬七千餘圓で昨年十一月下旬起工以後順調に進捗して目下六分通りの進工を見てゐるが新學期迄には竣工の見込み校舍は十二教室からなる二階建で舊校舍（十六教室）の中三教室を一室に改造して講堂に當てる筈である

唱歌研究會

石城郡第一區唱歌遊戲研究會は創立十週年と植田小學校講堂落成式を記念すべく今十六、七の兩日斯界の第一人者日本教育舞踊研究會長今泉蕉氏を招き同所講堂で舞踊講習會を開催中、尚平第二校橫山、甘南備、佐竹、大和田の各訓導は受講のため出席した

手に負へぬ　只飲常習男

飯野村北白土字木下二七山野逸定之助（四二）は舊臘二十五日平町長橋町飲食店草野屋こと草野トキ方で五円九十錢餘の無錢飲食を働き十五日平署で檢擧したが同人は無錢飲食常習者で過般も同町大工町吉本旅館その他數ヶ所で何れも只飲みを働へた手に負ひぬ中年男で同署では今度は愈々送檢するらしい

空樽盜み　懲役一年を求刑さる

既報出獄後間もなくカフエーから酒の空樽を盜み古物屋に賣歩いてゐる所を平署員に捕へられ平町北目町一五前科三犯叶多敏也（四四）に係る竊盜事件の公判は今十六日午前十時から平區で野木判事係り石合檢事係りの下に開廷されたが檢事から懲役一年半求刑された判決言渡しは來る十九日午前九時

三井榮一氏　盲人開眼に　金一千圓寄附

平町公會堂建設費に大枚一萬圓をぽんと投げだした平町出身當時東京市在住の富豪三井榮一氏は今度は縣の盲人開眼手術事業の趣意に讃成して平町役場を通じて千圓也を寄附した

海軍工廠　職工の申込　平町十一名

橫須賀海軍工廠職工募集は平職業紹介所で取纏め中であつたが今十六日までの締切りまでに十一名の申込あつた

賭博罪言渡

既報懲役三ケ月を求刑された双葉郡浪江町の前科五犯の常習賭博犯人渡邊金藏（六八）の判決言渡し公判は今十六日午前十一時から平區で田中判事係り石合檢事立會の下に開廷され求刑通り言渡された

娘夫婦と衝突し　馴れぬ仕事で大怪我

世を果敢む中年男　喉を搔ッ斬り自殺

好間村北好間字三反田二七滿井定次郎方同村平炭礦坑夫山形縣西置賜郡東根村生れ菊地吉治（四七）は十五日午後三時半頃同居先の座敷で日本剃刀を以つて頸部二ケ所を搔き切り自殺を遂げた、原因は同人は鄕里の娘夫婦に邪魔者扱ひにされたゝめ去る四日出稼ぎに來たが職早々の十四日作業中誤つてトロに刎ね飛ばされ大怪我を負つたので前途を悲觀發作的に死の現實逃避を選んだもの

貧故に孝子の盜み

平署近來の溫情ヒット！

物價騰貴の惱みが　惡の道に追ひ込む

〔昨報〕前後數回に亘り鐵屑泥を働き平署で檢擧した湯本町大字湯本字三函無職巖夫長男湯本小學校六年生門馬信夫（一三）假名は三年前當時坑夫だつた父が負傷が因で半身不隨になつて以來母イナ（三四）が女の細腕に救濟工事人夫として得る日給五十錢で家族五人を養つてゐるのを子供心に見兼ねて通學の合間々々にリヤカーを曳いて町內の屑溜から鐵屑その他を漁り生計の足しにしてゐたが最近の物價高騰で喰はれぬ日が多くなりかねて加へて病父の藥代も買ひぬところから惡の道に墜り鐵屑を同町入山炭礦軌道會社倉庫から前後四回に亘つて盜み出したこと判明、事情を知つた柴田平署長始め第二司法本田部長が懇々と將來に意見を加へて釋放、近來の溫情ヒットと云はれて居る

濱通り荒し　四倉署が逮捕

十四日夜九時頃石城郡四倉町新町某商店から新品の自轉車一臺（價格四十圓）を竊盜逃走せんとした靑年を四倉署員が取押へ本署に連行取調の結果右は岩手縣氣仙沼立招村當時住所不定、前科三犯今野圓平（二六）で昨年暮以來相馬郡原町小學校に忍び入つて職員室より現金五圓餘を竊取したのを手始めに平町に於て十數件の竊盜を働いた外更に同樣盛岡農學校より十二圓五十錢及高田高等女學校より望遠鏡、双眼鏡等を竊取したことを自白した同署では最近濱通りを荒し廻つた不敵な怪漢も同人と睨み嚴重餘罪追究中

海軍志願兵　今年は減る

十二年度海軍志願兵申込み受付けは今月末まで延期されたが今年は縣下一体に申込不足で郡下に於ても二百四十名の割當に對して現在までに二百三名で三十七名の不足を告げてゐるため今十六日縣から募集督勵方の通達があつた尚平町の申込は二十二名で昨年より二名增である

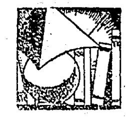
廢教場を移轉し　部落の公會堂に

深山田靑年が奉仕出動

上遠野村深山田地內分教場は廢校となつて使用せずにゐたがこの程同村農會並に實行組合が主體となつて廢校舍を同村大字中央に工費八千圓を投じて移轉し公會堂に當てることになり過般來靑年團員の奉仕に依つて改築中だつたが愈々竣功、十三日落成式を擧行した今後は一切の村內集會に利用する筈

義士祭開催

好間村今新田小學校は來る二十七日（舊十二月十五日）義士祭を催す由



石城郡に於ける寺院（八）

鄕土研究

磐城高等女學校三年生調査
教諭　鈴木光四郎補正

中鹽山蘭秀寺　平窪村中鹽
曹洞宗太源派　本山鶴見總持寺
開山　天際良須上人
檀家　四十戶　念佛講
緣起　好間村靑雲院末にして永祿元年中鹽村主中條平次郎政重の開基なり、尚熊野神社東側の平坦なる高臺が往時の城跡なりと。

寶珠山修德院龍宅寺　豊間村游磯
新義眞言宗智山派　本山京都智積院
開山　堅照法印
檀家　百戶
緣起　天正十八年の開基なりと云ふ。

砂石山身光院寶藏寺　豊間村豊間
新義眞言宗智山派　本山京都智積院
開山　宥光張法師
檀家　五十戶　弘法大師講與教大師講權現講あり
寶物　七百年前の山門あり豊間舘主樋口玄蕃の建造せるものと云ふ
緣起　不詳往古は大野村藥王寺學頭格にして全盛なりし時代ありと云ふ

淸風山地藏院淨應寺　豊間村豊間
淨土宗名越派　京都知恩院
開山　良可圓秀
檀家　百六十二戶
緣起　正長二年開基、享保十八年燒失再建。

最勝院　大浦村上仁井田
淨土宗名越派　本山東京芝增上寺
開山　一蓮社良十上人
檀家　三百戶
寶物　祐天上人に關する寶物。念佛講あり
緣起　後陽成天皇の天正十七年良十上人時の領主岩城忠次郎貞隆の舍弟白土大和守重隆の歸依をうけて創建せられ、永代常念佛諸願成就の道場なりき。中興開山祐天上人は檀家新妻家に生れ目黑祐天寺にて寂す。遺言により目黑大浦の兩寺に分骨し葬る。

耕田寺　大浦村鹽木
淨土宗
檀家　二十五戶　念佛講あり
緣起　不詳

稻荷山普賢院光明寺　大浦町狐塚
眞言律宗古義派　本山奈良西大寺
開山　宥譽上人中興開山日雄大和尚
檀家　九十戶
檀家　二十戶（預）
緣起　正治元年宥譽上人開山、大永元年日雄大和尚中興開山、往古は天臺宗なりしも後眞言律宗に改む。

長福寺　大浦村狐塚
眞言律宗古義派　本山奈良西大寺
緣起　昔時は天臺宗にして宥譽上人の開基なり後岩城小太郎成衡正次元年中興せしも中絶し大永元年日雄和尚再興す。

無量山阿彌陀院長隆寺　大浦村長友
新義眞言宗智山派　本山京都智積院
開山　惠哲和尚
檀家　七十戶
寶物　國寶地藏菩薩
緣起　貞和三年岩城次郎朝義の創建にして當時の經營全からず朝義の子長隆僧惠哲に師事し惠哲和尚和尚を開山となすに及び經營全く成る、當時安養寺と稱せしが長隆早世の後阿彌陀佛を當時に安置す故に阿彌陀院と號す。天文五年玉山村惠日寺僧某中興す。當時長隆の德崇せる故長隆寺と改む。

簡保健康相談所　大入叶の大繁昌

理解が深むと共に　受診者日每に激增

簡易保險加入者の健康相談は平町に健康相談所開設以來年每に利用者激增し昨年中の受診者總計三萬三千四百九二名で月別に見れば

（一月）二、二七四（二月）二、一六五（三月）二五、〇五（四月）二、二六六（五月）二、七四六（六月）二、九五六（七月）二、九二九（八月）二、八三九（九月）三、一九〇（十月）三、二八三（十一月）三、二一九（十二月）三、一二〇

十年中の二萬八千三百三十一人に對比して一躍五千百六十一人の殺騰する**超過振**りを示してゐるがこれは簡保加入者の累增と近年益々同相談所の理解が深められて來た傾向を如實に物語つてゐるもので、醫師一人に助手格の看護婦三名は日每に殺到する百數十名の受診者に息をつく暇もない大繁忙さ、利用者は內科を筆頭に耳鼻科が多く地元平町を筆頭に內鄕、好間方面の炭礦地帶が**最多で**　今後益々增加の見込み『自然醫師も增加する樣になりませう』とは一手幅輳する事務を引受けて大汗の影山事務主任の話

因に此處では投藥をしない關係上處方箋を發行してゐるが更に要手術者その他の患者には開業醫と連絡、診療券（一般券、齒科券）を發行、昨年は一般診療券四百三十四枚、齒科券八十九枚を出した

川部村長　芳賀氏當選

川部村は村長選擧にからまり元同村助役芳賀義彥村議加藤元吉兩派に對峙して紛糾を續けてゐたが十五日の村會では決戰投票を行つた結果七對四で芳賀氏の當選決定した

水道委員會　平町

水道委員會は二十日午前十時から會議室に開き、昭和十二年度水道豫算に關する件を附議する

第一校が耐寒行軍

平第一校は近く全校兒童の耐寒行軍を催す事になり目下プラン作成中

濱三郡の校長が　平町に合同協議

濱三郡下石城、双葉、相馬の各小學校長並に靑年學校長會は來る二月二日午前九時から平第三小學校講堂に開催諸橋學務部長（知事代）を始め高井教育課長、各視察臨席種々協議するが聽取事項としては左記二項目である由

一、理科教育の振興に關し特に努力しつゝある事項如何
一、靑年學校施設經營之本年度特に實施したる具體的事項如何

女給の湯錢　平町

湯屋組合ではこの程總會を開き女給連の湯錢は從來四錢であつたが本年度から藝妓、酌婦と同じ五錢に値上を附議決定した尚改選された新役員は左の如し

△組合長愛滯長次（大工町玉の湯）同副飯田近治（城山樂樂園）△會計增子富治（田町梅の湯）

舊正月の小遣稼ぎ　人夫不足が緩和されて

石川湯本線改修進む

石住上遠野間縣道石川湯本線の改修は人夫不足で工事に支障を來してゐたが最近になつて舊正月の

平町人事

回出生

△材木町二當時茨城縣多賀郡日立町新妻直正氏長男上周さん

回婚姻

△福岡縣遠賀郡岡垣村當時大連市聖德街三丁目一〇二菅長畑廣明氏（二八）四街町二二山田幸さん（二二）

平職業紹介所報告

回求人之部
△事務員　四十才以下　高卒以上月給三十圓以上
△出前持　三十才以上　尋卒給面談
△〆粕人夫　二十才前后　給十—十五圓
△小使　二十—三十才迄　日給七十錢
△女中　十五—二十五才迄　給四圓
△事務員　二十—三十才迄　高卒以上給三十圓

回求職之部
△給仕　十六才　高卒
△番人　二十八才　尋三修
△農業　二十四才　高卒
△婦人子供服見習　二十一才　實科女卒
△土工夫　五十才
△鐵工　十八才　高卒

JOHK　今晩の部

▽後六、〇〇　傳說童話劇
金澤[illegible]會
▽後六、二五　講演「放送に對する投書に就てのお願ひ」中山放協常務理事
▽後七、三〇　大衆演藝の夕　詩吟　鈴木凱山
▽後七、五〇　漫才「われらの春」五郎
▽後八、一〇　講談「小金井小次郎」神田ろ山　歌謠曲　勝太郎
▽後九、〇〇　時事解說「歐洲列國とモロッコ問題」町田梓樓
▽後九、三〇　時報　ニユース　明日の話題　番組豫告

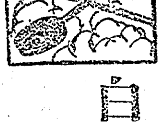
明日の部

▽前九、三〇　子供の時間　解說付管絃樂　日響
▽前一〇、〇〇　日曜勤行　天臺宗三宗戶寺中繼
▽前一〇、四〇　講演「國策と民族生物學」古屋芳雄
▽前一一、一〇　科學講話「我國の石炭は如何なる植物より出來たか」岩崎重三
▽後一、二五　男聲合唱　關西學院グリークラブ
▽後一、四五　吹奏樂　陸軍戶山學校軍樂隊
▽後二、一五　浪花節劇「安兵衞東下り」市川紅三郎
▽後二、五五　落語コント　昔々亭桃太郎他
▽後四、二〇　春場所大相撲—兩國々技館中繼
▽後六、〇〇　お伽漫談「お伽の國の遊覽自動車」木下華聲
▽後七、三〇　日曜特輯ニユース演藝
▽後七、五五　舞臺劇「祇園祭禮信仰記」金閣寺の場　片岡我當他

三井タクシー
平　二　電・五八六番

茶の花吟社　新年會句集（二）

☒松過ぎの芝居に妻とくつろげり　上鵜
☒松過ぎの舟勇ましく出るところ　〃
☒双六にほゝ笑みかけて酒くめる　〃
☒萬兩の朔をいよ／＼良ありぬ　〃
☒玄關の萬兩に日の夕すけり　〃
☒松過ぎぬ床の間の軸そのまゝに　秋所
☒松過ぎのしゞまを浸り賓の風呂　〃
☒けつたいな聲をはり上げ猿廻し　〃
☒萬兩のつぶらなる實に眼ざめゐし　〃
☒よき父となりて双六興じゐる　〃
☒萬兩に子の無き夫婦ひそとゐし　〃
☒繪の具の香糸をつきけり繪双六　〃



白柄劍風連

大島多慶夫作
井川洗涯畫
（[illegible]）布施長春畫
（[illegible]）村瀨春映畫
（[illegible]）

……五四……

老[illegible]師（五）

牛之丞は突つ立つたきり、源太の戀法と現在の行動について考へて見た。正しく[illegible]大膽に[illegible]めてゐるに[illegible]ないとも思つて見た。しかし、一[illegible]には[illegible]府が彼の[illegible]に五百石の[illegible]をかけてゐるといふことも聞いてゐる。どうも源太の[illegible]は[illegible]に怪しい。[illegible]である。ふと思ふ[illegible]したことも頭腦にうかんだ。彼が島原に濁々の身を投げ出したとき、既に彼は幕府から何等かの[illegible]な使命を帶びて來たのではなかつたか。さう考へて見ると、彼は必ず[illegible]と共に[illegible]のなかへ[illegible]り込む事を[illegible]けてゐたやうだつた。そして、[illegible]をしては、[illegible]の首級を下げてもどつて來た。

『うむ。あいつは彼の時から[illegible]府の[illegible]をつとめて居つたな』

と、牛之丞は[illegible]に[illegible]が[illegible]くなつたやうに[illegible]じた。さう思つて見ると、源太の[illegible]にまつはる不可思議なことが、やうやく[illegible]を一枚づゝ剝ぎとるやうに[illegible]した。

『[illegible]！　[illegible]！』—

牛之丞は[illegible]はずハッとむづいた。そのときは[illegible]かつた。自分は十[illegible]の役人どもに[illegible]にとりかこまれてゐた。

と、牛之丞は斬りぬけられる人數の[illegible]な力を[illegible]した。だがどの[illegible]も、[illegible]に人を[illegible]して、ヂリ〳〵とめじろ押に寄せて來る。すると、[illegible]らしいのか、つッと[illegible]り寄ると十手をふりかぶつて

『[illegible]だ。神妙にお繩を頂戴しろ—』と、[illegible]かた[illegible]で呼んだ。

『[illegible]ど……[illegible]な』

と、牛之丞は上段にかまへると、やつと[illegible]たかく同心に[illegible]んだ。カチンと[illegible]に十手で受けとめたが、牛之丞に十手で[illegible]られる[illegible]があるので、さつと[illegible]を引いた。また[illegible]から十手を[illegible]いて來た。クルリと[illegible]りぬけて[illegible]に[illegible]ふと、うーむと唸つて[illegible]に[illegible]れた。一方に[illegible]が出來た。この[illegible]とばかり牛之丞は[illegible]のやうに[illegible]り出した。

『それ。逃がすな。』[illegible]の[illegible]

『[illegible]れだぞ』

と、同心をはじめ[illegible]方は[illegible]に[illegible]つたが、牛之丞は[illegible]の[illegible]まで來ると、[illegible]行中から一際の人數がくり出して來たのを見て[illegible]と、[illegible]の[illegible]から身をどらして[illegible]の中へどぶんと飛込んだ。

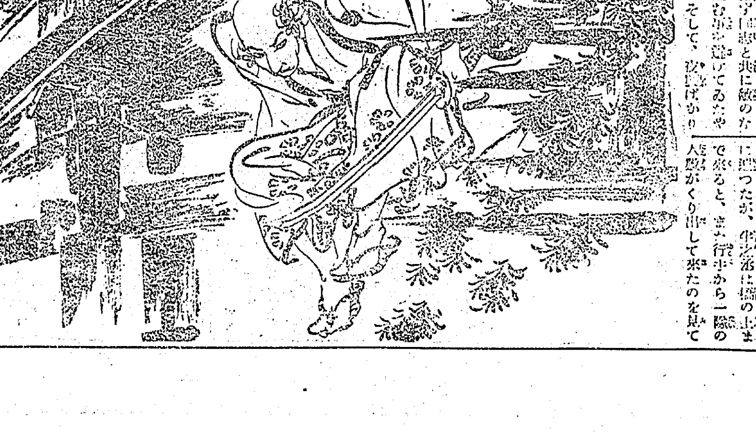
『[illegible]とちる[illegible]しい[illegible]かしら？』

× × ×

命拾ひをした源太は、やうやく大川[illegible]までくると、[illegible]をついた。

[illegible]川の灯は、大川に流る[illegible]火と、一緒に[illegible]がもつれて、ちやうど、[illegible]色の[illegible]がおどるやうに、ひた〳〵と岸を洗つてゐる水を彩つてゐる。

源太は、ふと十[illegible]と初めて會つたときに、こゝを通つたことを思ひ出した。そして、自分が水[illegible]の[illegible]を[illegible]て、[illegible]しく交際をなしてゐることを考へると、[illegible]から[illegible]大な使命を帶びて、世間を[illegible]き良心を[illegible]ふにて生きてゆく身の[illegible]さを、とくと考へずにはゐられなかつた。



御存じ？

◇小魚類の煮付のコツ　小魚類を丸のまゝ煮るには、調味料と一しよに大豆を三十粒入れて煮ると骨ぐるみやはらかになり、頭こと食られます。また番茶を煮出して煮ても軟かになります。

育兒の知識

コタツに寢かすと心臓を弱くする

あやし方、抱き方について

◇……お母様へ警告

◇…赤ちゃんの育て方については、これまでいろ〳〵誤つた方法が行はれてゐたやうです、その二三の例についての

注意　をかゝげて見ませう

◇赤ちゃんを扱ふ時は殊に危險を感ずるのは赤ちゃんが何か口にくはへてゐる時、急にくすぐつたり笑はせたりすることで、さうすると口のものを呑みこんでしまふおそれが多分にありますからよく注意しなければなりません

◇赤ちゃんが、はやくすわることが出來たり、歩く事が出來たりしますと、親としてはこれに越した喜びはなく、とかく自慢にしたがるものですが、あまりにはやく未だ充分に

骨骼　の固まらないうちにすわらせたり、無理に歩かせたりしますと、取かへしのつかぬ失敗をする事があります

◇…赤ちゃんの頭は全身の割に非常に重く、殘りの胴、四肢の重さを合計したものと同じ位ありますから、あまり早くすわらせますと頭の重みが背骨だけにかゝることとなり、その結果、背骨がまがつて

猫背　になるおそれがあります、又た、あまり早くから無理に歩かせますと膝が半足になつたり脚から下の脚の骨が内側にまがつたり外側にまがつたりします、すんなりと伸びた美しい脚をつくるには膝の骨が充分にしつかりするのを待ち、それから立たせたり歩かせたりするやうにしなければなりません

◇…赤ちゃんを抱くのにも身體をあまり眞つすぐに立てゝ抱きますと早くからすわらせるのと同じで猫背にするおそれがあります、また頭を、右なら右、左なら左と一方にだけむけて抱きますと、背骨がその方にまがりますから注意しなければなりません

◇…赤ちゃんをコタツに寢かすことは悪くなるとよくやることですが、これは

體溫　があがりすぎ心臓を弱らせますから絶對に避けたいものです

一般に赤ちゃんは、何でも手にしたものは口に持つて行きたがるものですから、殊にお金とゴム風船は決して持たせぬやう注意しませう、また床の上に落ちたものをひろつて食るのは色々な病菌を口にするといふ大きな危險がありますのでそれをよく説明すること

笑話

◉店員斯くあるべし

「このアザラシのコート、とても氣に入つたわ。だけど雨にぬれても、これ大丈夫かしら？」

「それはもう奥樣、アザラシがカサをさしてゐるなんか、見たことがございませんからね」

着物の科學

重ね着の仕方で肌の溫度が異ふ

風を引きたくない方は工夫をして下さい

そろ〳〵重ね着をしなければ過ごせない寒さに入りました、うすいものより厚いもの、一枚よりは二枚、三枚とかさねて着る方があたゝかいといふことは子供でも知つてゐますが、この事をもうすこし科學的に考へてみると、從來の考へ方で多少の訂正を要するやうな點も出來ます

溫度は階段的

◇…重ね着をしますと、衣服と衣服との間において、外から内にむかつて階段的に溫度が高まります今この溫度を男子の背廣姿によつて具體的にしめしてみると、外は初冬の寒さ（十五度位）の場合、上衣の下は丁度秋の終りころの溫度（十九度四分）であり、チヨツキの下は一段とあたゝかくて仲秋（二十二度四分）ワイシヤツの下は又ずつと暖かくなつて初秋（二十四度八分）シヤツの下になるとまさに夏の終りころのあたゝかさ（二十八度五分）であつて、この溫度からぢかに皮膚にふれてゐるわけであります

保溫の要件

◇…このやうに、重ね着をすれば保溫が出來るのですけれど、それではどんなものでもいゝ、とにかく數枚もかさねて着さへすれば保溫の目的は達せられるかといふに決してさうはまゐりません、茲に保溫の要件となるべき條件を擧げると

一、傳熱性の小さい原料から製造したものを用ひることが大切です、織物の中では、麻は傳熱性がもつとも大きく、木綿、人絹などこれに次ぎ、毛、絹はもつとも小です

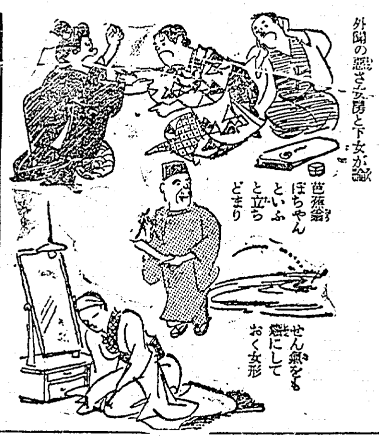
二、空氣を多量にふくむ被服地を内部に用ひる事です、空氣を多量にふくむものといへば、厚さが厚く、質は粗く、彈力のある地質が理想的で、ネル、ラシヤ、毛布などのやうに毛羽をおこしたものとか、メリヤス編物のやうな組織のものは、この意味で保溫性が大であります

三、被服の外側は、なるべく空氣の流通の少い材料を組合せて用ひることが必要です、これはあたゝかい空氣が外へ出ず、外の寒い空氣が内に入らぬためであります

保溫と通氣性

◇…以上は、衣服を主として保溫の立場からながめたのですが防寒衣服が私達の生活にとつて一日も缺かすことの出來ぬものである以上保溫のほかに、また考へねばならぬ事があります、衛生上から見た衣服でもつとも大切な事は、通氣性を持つてゐるといふことでこれは一見、前の保溫性とは全然反對のことのやうな氣がしますけれど、要は兩者をうまく調和させるところにあるのです

川柳漫畫　句　食満南北　繪　前川千帆


外聞の悪さ女房と下女が喚
芭蕉翁ぼちゃんといふと立ちどまり
せん氣をも癪にしておく女形

腹が立つた時の奥様の心得

◇まことに恐れ入つたことです。淑女に向つて、無禮な言ひ條ではあるが、世の中には「爲二」といふこともあります。生涯に一度でも、腹を立てる場合があつたら、これを御覽ください。まんざら御爲のゆくことばかりもあるまいと存じます◇

腹の立つたんびに損をすることを思ふべし

昔の流行唄にもある。怒るたんびに盃をすることは、必ずしもわからずやの親爺さんの場合だけではない。昔から「短氣は損氣」ときめられたやうに、腹をたてゝ損せぬことはない。

何事ごとでも、さきに腹を立てた方が、けるにきまつたものなり。何んといはれても、腹をたてぬ人と取り組んでは、勝目はなきものなり。お宅では、誰が一番に腹を立てるか。おこり易い人が、負けやすい人なり。

女中にむかつて腹をたてる奥樣は、道理ながらも敗北は奥樣にあり。子供に對して腹をたてる母は、わが子にさへも負けるものなり。いかに良人に無理があつても、妻が腹をたてゝこれにむかへば、斷じて勝てるものにあらず。腹ばかりは立てゝ利益のあるものにあらず。

皮膚の衛生學

いかに寒くても洗顔は水に限ります

ロシイ・上田女史談

朝の寒さ——洗顔に水を使ふのがだん〳〵苦痛になつて來ます、湯氣と湯氣のたちのぼる熱いお湯で顔があらひたくなります、しかし顔の皮膚のためには水とお湯とどちらがよいでせうか？　お湯がよければこの位有難いことはない、けれど水がよければあすからずつと水を使ふ事にしませう、水は毛穴をつぼめ、皮膚をひきしめます從つて皺が出來ません、しかし洗顔に

水　だけ使つたのでは充分に皮膚の脂がおちませんから、その後をコールド・クリームでふいておく必要があります、おしぼりなども熱いのは皮膚によろしくありません、タオルをひろげて、さましてからふいて頂きたいものです、アメリカの婦人は、元來、水を使はず、クリームだけで顔の脂、あかやよごれをふいてゐますが、手を洗ふ時には水をつかひます、ニユーヨークなどの大部分です、と、子供でも手や顔のよごれをバニシング・クリームでふいてもらつてゐます、皮膚のためにつめたい水はよろしいのですが、コールド・クリームを使はぬ時は脂が充分とれず、水であらつただけでは白粉がよくつかない憾みがあるのです

お　湯は毛穴をひろげます、その代り、水とちがつてキメがどうしても汚くなります、しかしコールド・クリームをつかはないとすれば、どうしてもお湯をつかはないわけにはゆきません、しかし熱いお湯は每朝の洗顔には絶對にいけません、每日、每朝熱いお湯で顔をあらつてゐると皮膚がゆるんで、皺が早く出るばかりでなく、夏など汗が餘計に出て困るやうになります、そこでお湯をつかふにしても溫度が肝腎です、それは極ぬるい溫度が理想で、お湯のなかに手を入れて見て丁度よいとおもふあたゝかさでは熱すぎます、手を入れて見てぬるいなと感じる程度がよいのです、しかし

每　朝の洗顔でなく、本式に美顔術をする場合には、矢つ張り熱いおゆが必要です、熱いタオルで充分にむして毛穴を開けて脂やあかをすつかりふきとり、そのあとを水でさまして開いた毛穴をつぼめます、そしてアストレンゼンでさらに顔をふき、皮膚を收しんさせておいてから、クリームやパウダーをつけるのです、この熱いタオルで顔をむすことは一週に一回位ならよろしいが、每日やつてはいけません

話の種

◇二十一才で十人の子供

ハンガリーのヴイルカのセルビヤ人部落のゾイボウイツクスと云ふ若い女は二十一才で十人の子供の母親と云ふレコードを持つてゐる、この珍しい事實は二兒を二組三ツ兒を二組生んでゐる

護れ太平洋の波

寺島柾史（作）

村瀨春映（畫）

……No.五五……

島を失ふ（三）

何處にも此處にも、刺客がひそんでゐるやうに感じた。島民を今は、殺人狂と變りない兇猛な奴だとおもふやうになつた、しかし、やはり日本人だといふ氣概が、粟飯原をして、表面だけでも平然を裝はしめた。

『もうかうなつたら、公然と島を離れるわけにいかぬ。おれ一人か、エリザの渡航をも極力押へるだらう。ハワイ民族の再興のために、血統正しいカメハメハ王家の女をしら犧牲にしようといふ青年たちの魔惡だ。よし、それなら、エリザを連れてこの島を、ひそかに脫け出すまでだ』

粟飯原は、悲壯な覺悟をした。のるか反るか、一番この脫出を決行してみよう。さうおもつた。

もちろん、エリザもこの企てに議論がなかつた。粟飯原と一緒なら、火の中、水の中へでもゆかみ恐ねないかの女の決心であつた。ほんとに、粟飯原を愛してゐたといふのか、ハワイ獨立運動のために粟飯原を利用するのか、その邊のことは、わからぬが、とにかくかの女の決心も牢固として拔くことのできないものがあつた。

島を脫出するには、兵器工場中から二三の武器を盜み出さなければならない、それから西海入江につないである船を盜まねばならぬ。だが、そのいづれにも、武器を監督した衛兵が步哨に立つてゐるから盜む途はない。

粟飯原は當惑した。

途のないところから、盜み出さうといふのだから、いきほひこれは冒險だ。

ある日お濱が、粟飯原にこんなことをいつた。

『ね、おまへさんを、みんなが殺さうとしてゐる』

『わかつてるよ』

『だからさ、はやく島をぬけたらいゝぢやないの』

お濱は、いやに落ちついてゐる

『脫出す手段がないぢやないか』

『あたしなら、譯ないと思ふわ』

『どうするンだ』

『女王さまを人質にするのさ』

『いやだ、そんな支那人みたいな卑怯なやり方……』

『ぢやどうする氣なのさ』

『教へてあげようか』

『どうするんだ』

『アメリカの軍艦、ね、ルードたちを山ン中でさがし當てさ、あいつらにあばれらせるのさ、つまり暴動よ、すると、下町に働いてゐるアメリカの下級船員たちも、みんなあばれるにきまつてゐる。さうなると島中が上を下への大騷動となるぢやない。そのどさくさまぎれに、女王さまを縛つて島をぬけ出すのよ』

『……さア、そいつも難しいな、だいゝちルード達は、まだ此島にゐるか、どうかわからないよ。あれからだいぶんになるからなア』

『だから探すのよ。あたし探してあげようか』

『そのかはり、アメリカへつれて行つておくれといふのだらう』

お濱が探し出したわけではなく、ルードたちは、數日のゝち、ひよつこり部落に現はれた。

月があつたが夜半だつたので部落の人たちの油斷してゐる隙に難作を襲ふてまづ步哨をやつゝけた

ルードは、戸外から怒鳴つた。

『おいみんな起きろ』

彼は捨て鉢になつて叫んだものだ。

部落の中ではゴツ〳〵といふ音がした。

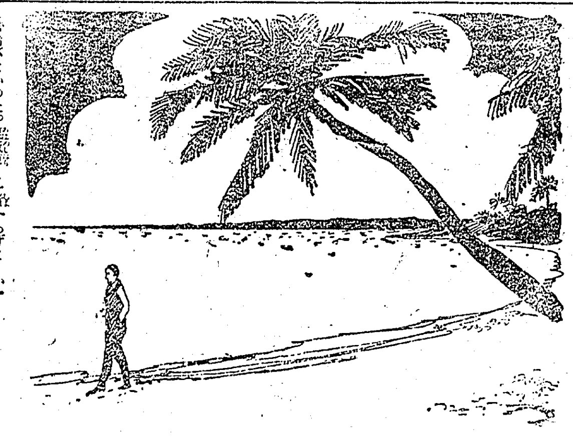
『おれはルードだ。ハワイ島民といくさをして、船を奪つてこの島を脫け出すのだ。みんな本氣になつてやつてくれ』

それからルードは倒れた步哨から鍵を奪つて入口の扉の鍵をはづした。わアーといふ聲とゝもに、囚はれてゐるアメリカの下級船員たちは戸外へ飛出した。

『おゝ、ルードさんだ』

『ヴエルズさんだ』

ルードは、並んだ船員たちを點した。



◎シモヤケ家傳藥◎

是れまでシモヤケは咲くならねば絶對に治らぬものと諦めて居つたのが一日二三回の御使用でクヅれたシモヤケも忘れた樣に完全に治ります是非一度御試し下さい保證致します

東京市丸非邦寶堂
福島茨城兩縣特約販賣　平町一丁目　伊藤石炭店　電話三四九
平町販賣店　長橋町　マスヤ商店　電話一七四
城山　鬼文堂書店
掻礁小路　助川ハキモノ店　平陽女學校前
月見町　山崎商店　電話四七七

耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平町南町一六（電話一七〇番）

おでん
呑兵衛
平町田町末廣通錦水跡

國旗と提灯　平・四　スガノヤ　電九五

かき料理・なべ類
始めました……是非御試食下さい

かきふらい	二十錢	かき酢ノ物	二十錢
あんことも酢	十五錢	よせなべ	三十錢
たらちりなべ	三十錢	ちりなべ	三十錢
はもなべ	三十錢	あんこなべ	三十錢
かきなべ	三十錢	ねぎまなべ	三十錢
鳥なべ	三十五錢	牛及豚なべ	三十五錢

金トンもあります二十錢
——此外御注文に應じ色々調理致します——

平二警察署通り
魚清食堂
電話六三三

美肌と外傷に!!!
トメフル
ヒビ、シモヤケ、アカギレ、ヤケド、切傷、痔疾、胎毒、丹毒
平町田町　阿部藥舖

吉田眼科醫院
平町紺屋町

吸入用酸素　純度99%
度量衡　モノサシ　マス　ハカリ
計量器　體溫計　寒暖計
秤ノ取緒・垂系・修繕致シマス
關内藥局　電話四〇番
◈寫眞材料一式販賣致シマス

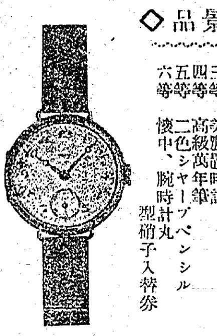
良酒と洋食
經濟本位

毎度有難うございます
レストラン
平宮舘
電624

開業貳拾週年記念抽籤附
謝恩奉仕大特賣
▼お買上げ壹圓毎に……抽籤券壹本添付……
▼特期間賣　來二月十五日マデ（自正月五日）
▼抽籤日　昭和十二年二月十七日
▼當籤發表　同　年二月十八日

景品の數々
◇品景◇
一等　金側八型腕時計
二等　ポータブル蓄音器
三等　美麗置時計
四等　高級萬年筆
五等　二色シヤープペンシル
六等　懷中、腕時計丸型硝子入替券
空籤なし

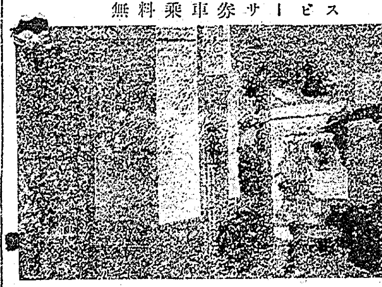
時計、眼鏡、貴金屬、萬年筆
平町二丁目
根本時計店
電話六〇七番



專門
花柳病科
婦人科
産科
▼入院隨意
井坂醫院
平町田町　電話五五九番

■入院隨時
市原醫院
平町田町　電話一一四番
內科　小兒科　市原卯太郎
外科　梅毒淋病　市原三三男

鐵道省指定記念
小濱名……湯本間乘合自動車
無料乘車券サービス



小瀧へ!!
◇宿泊料　1.50　2.00　2.50
（御滯在は左記料金にて中食料をふくませます）
◇日歸浴席料　.20
◇自炊料　.50—.80　入湯料・室料　夜具料一切
◇料理—定食　.80　1.00　1.50
（その他一品料理洋食）
◇湯効　神經痛、リウマチス、胃腸病、痔疾、婦人病、逆上、中風、肥胖病
（内務省東京衛生試驗所檢定済）
◇諸設備　撞球臺、高級ラヂオ、大廣間、讀書室、近代式浴場と洗面所、水洗式便所、小動物園、タクシー部、御子樣運動器具
◇名物　川魚料理（うなぎ・鯉）蜂密羊かん
◉女中數名入用◉
常磐線湯本驛　小瀧鑛泉
御旅館御自炊　瀧の湯
電話（小名濱）103番

乘車券は小名濱馬目自動車店、西野屋自動車店、湯本驛前丸本、矢内自動車店に御座ます。三人樣以上はハイヤーをサービス致します。何卒御利用下さい。

花柳病科　外科
木村外科醫院
平町六丁目橋際　電話三〇九

難波醫院
平町大町新川端
電話五〇二番